公　　民

1　公民科における授業改善等の成果と課題

現行の学習指導要領では、育成を目指す資質・能力の三つの柱である「知識及び技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」に沿って、教科の目標及び内容が再整理された。公民科の指導に当たっては、教師には単元や題材など内容や時間のまとまりを見通し、「生徒にどのような力が身に付いたか」といった学習の成果を的確に捉えながら、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に取り組むことや、社会的な見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる、平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することが求められている。

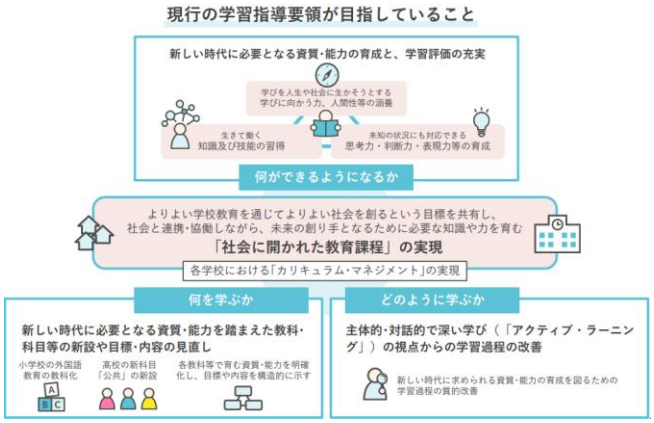


図１　初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について
（令和６年 12 月 25 日中央教育審議会諮問）

また、生徒の資質・能力を育成するに当たっては、学習指導要領の趣旨を踏まえ、「個別最適な学び」と「協働的な学び」といった観点から学習活動をより一層充実させるため、これまで創意工夫して取り組んできた実践に加え、ICT の効果的な活用など新たな可能性を指導に生かすことで、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげていくことが重要である。

こうしたことを踏まえ、北海道教育委員会では、各教科等教育課程研究協議会や北海道高等学校教育課程研究協議会、指導主事による学校訪問等を通して、次のような教育課程実施上の成果と課題を把握した。

	成果	課題
全体	・現行の学習指導要領における「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善」を学校単位で推進している高校が増加している。 ・各種研究協議会を通して、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実が図られている。 ・主体的に生徒が活動できるよう、心理的安全性を担保した授業づくりが増えてきた。 ・授業における ICT 活用の取組が充実している学校が増加している。	・自分の考えを持ち、根拠をもって明確に説明することや、自律的に学ぶ生徒の育成に難しさを感じる授業が見られる。 ・習得した知識を現実の事象と関連付けて理解し、概念としての知識の習得や深い意味理解をさせることに課題がある授業が見られる。 ・「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実について、校内における教員間の認識に差がある。 ・「生徒」を主語にした授業の在り方について、校内で一層研修する必要性がある。
公民科（「公共」について）	・授業等研究セミナーにおいて、「探究的な学び」の視点に基づいた協議を行い、生徒の主体性を育む方策を共有し、多くの学校で実践している。 ・各次の授業において問いを設定し、問いを基に生徒が考察、構想する授業が増加している。 ・個別最適な学びと協働的な学びの充実を図るため、ワークシートの工夫や ICT を効果的に活用しようとする授業が増加している。 ・地域の関係機関と連携し、地域課題等に取り組む学習を行うことで、生徒が地域課題等に主体的に取り組もうとする意識が高まるとともに、具体的な社会事象との関わりを意識した学習内容へつなげる授業が増加している。	・大項目Ａの学習に多くの時間を要していることから、大項目Ａを10時間程度で終え、大項目Ａの内容を基に、大項目Ｂの充実を図り、大項目Ｃにおいて探究的な学習を実施するための時間を確保できるよう、改めて指導計画を構想する必要がある。 ・大項目Ｂの内容を網羅的に扱っていることにより、大項目Ｃの探究的な学習の配当時間が不足しているため、「政治・経済」等でも取り扱う事項については、「公共」として必要な内容に焦点化するなどして精選を図る必要がある。 ・各単元における「単元を貫く問い」が、各次で設定する「問い」を包括したまとめの問いになるよう、各次の「問い」の構造化を図った指導計画を作成する必要がある。

2　学習指導及び学習評価の改善・充実

学習評価は、「生徒にどういった力が身に付いたか」という学習の成果を的確に捉え、教師が指導の改善を図るとともに、生徒自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるようにするためにも、その在り方は重要であり、教育課程や学習・指導方法の改善と一貫性のある取組を進めることが求められる。

例えば、「思考・判断・表現」の評価は、各教科等の知識及び技能を活用して課題を解決する等のために、必要な「思考力、判断力、表現力等」を身に付けているか評価するものである。「思考・判断・表現」の評価をするために、教師は、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善をする中で、生徒が思考・判断・表現する場面を効果的に設定するなどした上で、指導・評価することが求められる。

また、思考・判断・表現の過程には、

・物事の中から問題を見いだし、その問題を定義し解決の方向性を決定し、解決方法を探して計画を立て、結果を予測しながら実行し、振り返って次の問題発見・解決につなげていく過程
・精査した情報を基に自分の考えを形成し表現したり、目的や状況等に応じて互いの考えを伝え合い、多様な考えを理解したり、集団としての考えを形成したりしていく過程
・思いや考えを基に構想し、意味や価値を創造していく過程

があると考えられ、各教科等の特質に応じて、「見方・考え方」を働かせ、探究的な学習活動の中で、具体的な学習内容、単元や題材の構成や学習の場面等に応じた方法について研究を重ね、ふさわしい方法を選択しながら、工夫して実践できるようにすることが重要である。

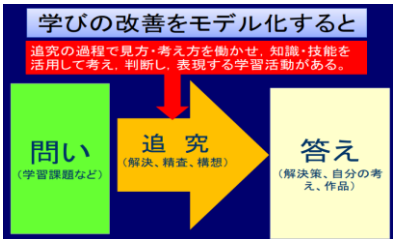


図２　新学習指導要領における思考力、判断力、表現力の評価について（平成 30 年７月９日教育課程部会 児童生徒の学習評価に関するワーキンググループ）

このようなことを踏まえ、公民科における学習評価の工夫としては、次のようなことが考えられる。

○　資質・能力をバランスよく育むための学習評価
・ペーパーテスト、論述やレポートの作成、発表、グループでの話合い、作品の制作や表現等の多様な活動を取り入れたり、それらを集めたポートフォリオを活用したりするなどして、多面的・多角的な評価すること。

○　生徒が学習を見通すことのできるワークシートの作成
・生徒が学習課題の解決への見通しをもつとともに、各次あるいは各時の学習活動を振り返り記述すること。
・生徒が自分の思考の過程等を客観的に捉え、学習に関する自己調整を図ることのできるよう工夫すること。

また、公民科における学習指導においては、「人間と社会の在り方についての見方・考え方」を働かせ、考察、構想する学習を重視することから、次のような学習を一層充実させることが重要である。

単元など内容や時間のまとまりを見通した「問い」を設定し、「社会的な見方・考え方」を働かせ、
①社会的事象等の意味や意義、特色や相互の関連等を考察する学習
②社会に見られる課題を把握してその解決に向けて構想する学習

３　指導と評価の計画例

(1) 公共の計画例「Ｂ　自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち (2)主として政治に関わる事項」

ア　単元の目標

自立した主体としてよりよい社会の形成に参画することに向けて、現実社会の諸課題に関わる具体的な主題を設定し、幸福、正義、公正などに着目して、他者と協働して主題を追究したり解決したりする活動を通して、次の事項を身に付けることができるようにする。

・政治参加と公正な世論の形成、地方自治、国家主権、領土（領海、領空を含む。）、我が国の安全保障と防衛、国際貢献を含む国際社会における我が国の役割などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、よりよい社会は、憲法の下、個人が議論に参加し、意見や利害の対立状況を調整して合意を形成することなどを通して築かれるものであることについて理解する。

・現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付ける。

・主として政治に関わる事項について、法、政治及び経済などの側面を関連させ、自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現する。

・よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする。

イ　単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・よりよい社会は、憲法の下、個人が議論に参加し、意見や利害の対立状況を調整して合意を形成することなどを通して築かれるものであることについて理解している。 ・現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめている。	・幸福、正義、公正などに着目して、主として政治に関わる事項について、法、政治及び経済などの側面を関連させ、自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。	・主として政治に関わる現実社会の諸課題について、よりよい社会の実現を視野に、当事者意識をもって主体的に解決しようとしている。

ウ　単元の指導と評価の計画（７時間）

次【時間】	学びの過程	ねらい、学習活動等	重点	記録	備考 ※「おおむね満足できる」状況（B）
第一次【２時間】	習得	【単元を貫く問い】 よりよい社会の形成に参画することに向けて、私たちは民主主義の担い手として何ができるだろうか。 【問い】民主主義はどのように形成されてきたのだろうか。 ・個人の利益と社会の不利益を事例として、公共的な空間の基本的原理について理解する。 例）・表現の自由と SNS の不適切投稿 ・歩行を妨げる迷惑駐輪	知		【仮説の設定】 単元を貫く問いに対する単元当初の仮説を設定し、単元終末時に改めて考察することで自己の考えの変容を見取る。 ※ワークシート参照 ・公共的な空間における基本的原理（民主主義、立憲主義、人権保障）及びそれらを反映した日本国憲法の理念について、その意義や仕組みを正しく理解している。
第一次【１時間】 本時 生成 AI の活用	活用・探究	【問い】当事者意識はどのように形成されるのだろうか。 ・成年年齢の引き下げに伴い、選挙権が 18 歳に引き下げられたことを踏まえ、政治へ参画することの意義や政治的無関心について考察し、表現する。	思		【生成 AI の活用】 生成 AI に「若者が選挙に行かないとどのような社会になるか」「選挙権が 18 歳に引き下げられたことには、どのような意義があるか」等を、入力し、生成 AI の答えと自己の考えを比較し、考察する。
第二次【３時間】	習得	【問い】民主主義の原理は日本国憲法にどのように反映されているのだろうか。 ・日本国憲法第 12 条に明記されている「不断の努力」が主権者にとって何を意味しているか理解する。 【参考】北海道保健福祉部：北海道こども基本条例に関するページ（Link①）	知		【主権者教育】 子どもの権利条約などを根拠に、高校生を含む未成年も、社会の形成者として主体的に社会に参画する存在であることについて触れる。
第二次【１時間】	活用・探究	【問い】民主主義を支えるために私たちは社会の課題にどのように関わるべきだろうか。 ・憲法改正の必要性について考察し、論拠をもって表現することで社会の課題を見出す。 【単元を貫く問い】 よりよい社会の形成に参画することに向けて、私たちは民主主義の担い手として何ができるだろうか。	思	○	・公共的な空間における基本的原理の意義や、それらを実現する上での課題について、資料を活用して多面的・多角的に考察し、自分の考えを表現している。 【単元テストの実施】 単元の当初で設定した仮説に対して、単元を通じて学んだ知識等を生かして単元のまとめを記入することにより、学びの振り返りを行う。

エ　学習指導案（３時間目／７時間中）

過程	学習活動	指導上の留意点
導入	【問い】当事者意識はどのように形成されるのだろうか。 ・日本財団が実施している 18 歳意識調査「第 78 回-国や社会に対する意識調査（６カ国調査）-」の結果を示し、日本の回答結果について、日本と他国を比較する視点でペアワークにおいて意見交換を行う。	・調査結果を引用・転載時には、「日本財団『18 歳意識調査』調べ」と明記すること。
展開	・端末を活用し、教師が作成した Google フォームで政治への参画意識と政治的無関心の増加による弊害を考察して入力する。 ・自身の考察と生成 AI による回答を比較する。 例）若者が選挙に行かないとどのような社会になるか。 例）選挙権が 18 歳に引き下げられたことには、どのような意義があるか ・選挙は誰のためのものであるかについて考察する。	・多面的に考察できるよう、Google クラスルームを活用して、生徒の答えを全体共有する。 ・教科書に記載されている、議会制民主主義の用語に着目させ、知識の定着を図る。 教科書に記載されている用語の意味と、実際に生徒が考察した答えが関連していることを強調する。 ・政治的無関心や多数決の原理がもたらす影響について触れる。
まとめ	・日本国憲法における国民主権の意義と、選挙権が 18 歳から与えられている意義について、考察を踏まえて整理する。 ・問いに対する考察を、単元シートに記入する。	当事者意識を醸成する必要性の観点から記入するよう、生徒に伝えることも考えられる。

オ　学習の進め方や学習評価の工夫

(ｱ) 学習の進め方

授業の導入で客観的データを示し、当事者意識の現状から課題を見出させるとともに、生徒が仮説を立て、政治的無関心が社会に与える影響を多面的・多角的に考察する。

また、自身の考察と生成 AI の回答を比較する対話的な活動を通じ、仮説の根拠を明確にする。

(ｲ) 学習の自己決定

生徒が自らの特徴や興味・関心に応じて、次のような「学び方」を自ら選択できる場面を設ける。

・他の生徒と意見を交換するなどして、協働的に学びを深める。（協働的な学び）
・端末を活用して情報収集を行う。（個別最適な学び）
・自らの興味・関心を足がかりにして学習を進める。（自己との対話）

ただし、生徒に「学び方」を自己決定させながらも、Ｂ規準を意識した指導が必要である。

(ｳ) 「思考・判断・表現」の評価の工夫（評価Ａ～Ｃの具体）

事実を基に、政治の基本的な原理（人間の尊厳、民主主義、法の支配など）を活用し、多面的・多角的に考察・構想したことを論拠をもって表現していることにつ

いて、例えば、次のような生徒の姿を見取る。

評価Ａ	単に知識を当てはめるだけでなく、異なる立場からの反論を想定した上で、より説得力のある論拠を構想し、表現している。
評価Ｂ	事実関係を的確に認識するとともに、説得力のある論拠を構想している。
評価Ｃ	事実関係の誤認がある、又は特定の側面のみの偏った主張になっており、多面的・多角的な考察・構想ができていない。 【手立て】（参考資料）生徒の学習状況を見取る「単元シート」（Link②） 教師が単元シートにヒントとなる概念を記載したり、分かりやすい具体例（思考実験など）を用いた補足説明を行ったりすることで、「おおむね満足できる」状況（Ｂ）への到達を支援する。

(ｴ) 問いの設定の工夫

高等学校学習指導要領解説（公民編）の文言を参考にすると、問いが設定しやすくなると考えられる。

＜高等学校学習指導要領解説（公民編）＞

（前略）民主政治の推進や持続可能な社会を形成していくために必要な主権者意識や**当事者意識を育み，多面的・多角的に考察する姿勢**が，様々な集団や社会の多様性の尊重，ひいては各人の幸福を実現できるよりよい社会の形成にもつながることを（後略）

➡ 【問い】当事者意識はどのように形成されるのだろうか。

(2) 倫理の計画例「Ｂ　現代の諸課題と倫理　(1)自然や科学技術に関わる諸課題と倫理」（教科「情報」との教科等横断的な視点を用いた授業例）

ア　単元の目標

自然や科学技術との関わりにおいて、人間としての在り方生き方についての見方・考え方を働かせ、他者と対話しながら、現代の諸課題を探究する活動を通して、次の事項を身に付けることができるようにする。

・生命、自然、科学技術などと人間との関わりについて倫理的課題を見いだし、その解決に向けて倫理に関する概念や理論などを手掛かりとして、多面的・多角的に考察し、自分の考えを説明、論述する。
・人間としての在り方生き方に関わる事象や課題について主体的に追究したり、他者と共によりよく生きる自己を形成しようとしたりする。

※【参考】共通教科情報科の目標（一部抜粋）

(1) 情報と情報技術及びこれらを活用して問題を発見・解決する方法について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについて理解を深めるようにする。

(2) 様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。

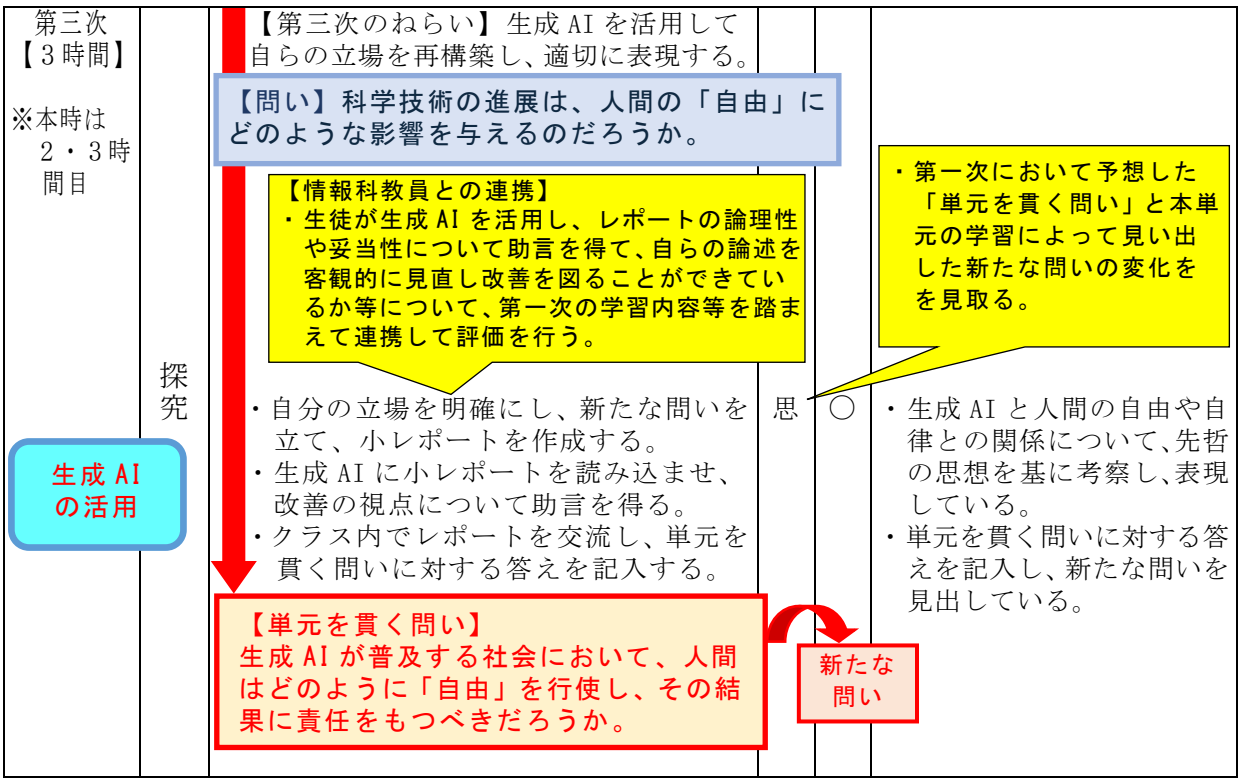
(3) 情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う。

イ　単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
倫理		・生命、自然、科学技術などと人間との関わりについて倫理的課題を見いだし、その解決に向けて倫理に関する概念や理論などを手掛かりとして、多面的・多角的に考察し、自分の考えを説明、論述している。	・人間としての在り方生き方に関わる事象や課題について主体的に追究したり、他者と共によりよく生きる自己を形成しようとしたりしている。
【参考】情報Ⅰ	・情報と情報技術及びこれらを活用して問題を発見・解決する方法について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについて理解している。	・様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を身に付けている。	・情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を身に付けている。

ウ　単元の指導と評価の計画（全７時間）

次【時間】	学びの過程	ねらい、学習活動等	重点	記録	備考 ※「おおむね満足できる」状況（B）
第一次【１時間】 情報Ⅰとの教科等横断的な視点	習得	【単元を貫く問い】 生成 AI が普及する社会において、人間はどのように「自由」を行使し、その結果に責任をもつべきだろうか。			・「単元を貫く問い」の答えを予想する。学習改善につなげる評価として見取る。
		【第一次のねらい】生成 AI の技術的背景やデータの特質を科学的に理解するとともに、先哲の思想を手掛かりに考える主体としての人間の尊厳や自律性について、自己の課題と関連付けて理解を深める。	態		【情報科教員との連携】 ・「生成 AI はどう回答を作るのか」、「生成 AI の出力にはどのような誤りや偏りがあるのか」等、生成 AI に関する基礎的な事項を説明してもらうなど連携を図る。
		【問い】自動運転で人を目的地へ運ぶ社会は、私たちを自由にするのだろうか。 ・自動運転の事例から、生成 AI に判断を委ねる利点と課題を多面的・多角的に考察し、その結果をまとめる。	思	○	・生成 AI を活用する際の利点と課題を整理している。
第二次【３時間】	活用	【第二次のねらい】第一次における考察結果を先哲の思想と照らし合わせ、人間としてのよりよい生き方や在り方を個人思考及び協働的な学習場面において考察し、探究的に学びを深める。			・先哲の思想を基に、生成 AI と人間の自由・自律との関係について考察し、自らの考えを表現している。
		【問い】生成 AI による判断が広く活用される社会で、私たちはどのように「自由」を行使し、その結果にどう責任をもつべきだろうか。 ・先哲の思想を手がかりに、自由と自律について考察する（本事例ではカント、ピコ、ミルの中から複数の思想家を取り上げる）。 ・小テストの実施	思	○	・取り扱う思想家は、生徒の実態に合わせて精選する。なお、今回は本単元以前に学習済みであることを想定している。 ・先哲の思想の特徴を自由、自律と関連付けて理解している（小テスト）。



エ　学習指導案（６～７時間目／７時間中）

※７時間目は情報Ｉとの教科等横断的な視点を取り入れた授業

過程	学習活動	指導上の留意点
導入（６時間目）	・前時までに学習した先哲の思想を振り返る。 【問い】科学技術の進展は、人間の「自由」にどのような影響を与えるのだろうか。	・前時のワークシート等を活用する。
展開１（６時間目）	・ワークシートを用いて自分の立場を整理する。（視点①自分の考え、②その理由、③根拠となる先哲の思想、④想定される反論） ・小レポートの初稿を作成する。（400 字程度）	【個別の支援・手立て】 ・個人思考の時間であるが、困り感を抱えている生徒がいるようであれば、生徒が書いた文章について教員が対話的に問い返す等、生徒自身の言葉で表現できるように支援する。
展開２（７時間目）	・生成 AI に初稿を入力する。 ・生成 AI の助言（改善の視点）を参考にしながらレポートを修正する。 ・改善したレポートを交流する。	・生成 AI の回答をそのまま受け入れず、必ずファクトチェック（事実確認）を行い、誤情報がないかを確認するよう指示する。
まとめ（７時間目） 情報Ｉとの教科等横断的な視点	・他者の考えを踏まえ、新たな問いやさらに考えたい課題を記入する。 ・グループで１枚ポートフォリオを共有しながら、単元を貫く問いに対する答えを記入する。	【情報科教員との連携】 ・例えば、よいプロンプトの内容や、生成 AI の回答を鵜呑みにしない方法（ファクトチェック）を指導したり、生成 AI との対話による思考の深化を支援したりする役割が考えられる。 ・記入の時間を十分に確保する。

オ　学習の進め方や学習評価の工夫

(ｱ) 生徒の学習状況を見取る「振り返りシート」（ポートフォリオ）の具体

◎単元全体に使用するワークシートの書式例（Link③）

◎振り返りシートの書式例と記入例（Link④）

(ｲ) 本単元における生成 AI の使い方及び活用の目的

次	生成 AI の使い方	生成 AI 活用の目的
第一次（習得）	生成 AI の回答例を教材として提示	現状理解・問題意識の形成
第二次（活用）	生成 AI との対話・考察として活用	思想的枠組みの獲得・個人思考
第三次（探究）	生成 AI に小レポートの改善の視点について助言を得る。	思考の深化・問いの再構成・論述の改善

(ｳ) 評価Ａ～Ｃの具体〈評価のポイント〉

評価Ａ	生成 AI と人間の自由・自律との関係について、複数の先哲の思想や倫理的課題と比較・関連付けながら多面的・多角的に考察し、想定される反論や異なる立場にも触れつつ、自らの考えの根拠を明確にして論理的に表現している。
評価Ｂ	生成 AI と人間の自由・自律との関係について、複数の先哲の思想や倫理的課題と比較・関連付けながら、自らの考えの根拠を明確にして論理的に表現している。
評価Ｃ	自分の考えは書いているが、根拠や先哲との関連付けが希薄である。 ◎評価Ｃの生徒への支援・手立て（Link⑤）

(3) 政治・経済の計画例「Ａ　現代日本における政治・経済の諸課題(2)現代日本の諸課題」の計画例

ア　単元の目標

社会的な見方・考え方を総合的に働かせ、他者と協働して持続可能な社会の形成が求められる現代日本社会の諸課題を探究する活動を通して、次の事項を身に付けることができるようにする。

・少子高齢社会における社会保障の充実・安定化、地域社会の自立と政府、多様な働き方・生き方を可能にする社会、産業構造の変化と起業、防災と安全・安心な社会の実現などについて、取り上げた課題の解決に向けて政治と経済とを関連させて多面的・多角的に考察、構想し、よりよい社会の在り方についての自分の考えを説明、論述する。

・現代日本における政治・経済の諸課題について、よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養う。

イ 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	・少子高齢社会における社会保障の充実・安定化、地域社会の自立と政府、多様な働き方・生き方を可能にする社会、産業構造の変化と起業、防災と安全・安心な社会の実現などについて、取り上げた課題の解決に向けて政治と経済とを関連させて多面的・多角的に考察、構想し、よりよい社会の在り方についての自分の考えを説明、論述している。	・現代日本における政治・経済の諸課題について、よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。

ウ　単元の指導と評価の計画（８時間）

次 【時間】	学びの過程	ねらい、学習活動等	重点	記録	備考 ※「おおむね満足できる」状況（Ｂ）
第一次 【３時間】	習得	【単元を貫く問い】 「個人の自由や豊かさ」と「社会全体の持続可能性」は、どうすれば両立できるだろうか。 【問い】人口が増減している全国自治体の課題にはどのようなものがあるのだろうか。 ・人口動態の統計より、人口増減が著しい自治体を１つずつ選択し、それぞれの課題、課題解決に向けた取組について調べる。 ・それぞれの課題について、ペアワークやグループワークを行い、他の生徒が調べた内容との共通点や相違点を比較する。 ・２・３時間目では、自分たちの住む自治体の現状や課題について調べ、課題解決に向けた取組を考察・構想する。その際、まちづくりに携わる外部講師から話を聞いたり、アドバイスを受けたりする。	態	○	・地域社会の自立と政府について、課題解決に向けて既習事項と関連させながら、得られた意見や助言の趣旨をつかみ、探究の課題設定や視点を振り返って修正している。 ・調べる際の留意点として、出典を明らかにすることや公的機関が取りまとめている情報を活用する。 ・比較の際、Google フォームに入力し、全体で共有する方法も考えられる。 【外部講師の活用例】 ・講師として、市町村職員、市民ボランティア、NPO 法人等の活用が考えられる。
第二次 【２時間】	活用	【問い】少子高齢化が進む日本では、「自助」、「公助」、「共助」をどのように組み合わせるべきだろうか。 ・「自助」、「公助」、「共助」の考え方を踏まえ、各自の優先順位を設定する。 ・乳幼児、学生、労働者、高齢者のライフステージについて、グループでどのような社会保障政策が必要なのかを議論する。 ・議論した結果を全体共有した後、改めて「自助」、「公助」、「共助」の優先順位を各自で理由とともに設定する。 ・第１位とした考え方が同じ生徒でグループを再構成し、必要な施策について議論する。 ・最終的に、グループで議論したことを発表する。	思	○	・少子高齢社会における社会保障の充実・安定化について、課題解決に向けて既習事項と関連させながら、多面的・多角的に考察・構想し、よりよい社会の在り方について自分ごととして捉えて自らの考えを説明、論述している。
第三次 【２時間】 本時 家庭科との教科等横断的な視点	探究	【問い】私たちはどのような働き方や生き方をしたらよいのだろうか。 ・日本の労働に関する現状と課題について情報を収集・分析し、これからの働き方に関する自分なりの考えを表現するとともに、労働以外の時間の過ごし方が、自分にとってより豊かな生き方につながるのかということを考察・構想する。	思	○	・多様な働き方・生き方を可能にする社会について、既習事項と関連させながら、多面的・多角的に考察・構想し、よりよい社会の在り方について自らの考えを説明、論述している。

第四次 【１時間】 生成 AI の活用	活用	単元を貫く問い 「個人の自由や豊かさ」と「持続可能性」は、どうすれば両立できるだろうか？ ・単元を貫く問いに対する答えについて、第一次～第三次で学習した内容を踏まえて検討、発表する。	思	○	・単元を貫く問いについて自身の考えを論理的に表現し、他者を意識して発表している。

【生成 AI の活用】
・生成 AI に単元を貫く問いとその答えを入力し、生成 AI の回答を参考にしながら生徒自身が批判的に検討し、より論理的な意見となるようプロンプトも含め工夫する。

エ　学習指導案（６～７時間目／８時間中）

過程	生徒の学習活動	指導上の留意点
導入	【問い】 私たちはどのような働き方や生き方をしたらよいのだろうか。 ・よりよい働き方や生き方とは何か、自らの考えを表現する。	・各自の考えを表現できる枠をワークシートに設け、理由も含めて記述するよう生徒に促す。
展開１ （６時間目）	＜働き方＞ ・提示された日本の労働に関する資料を見ながら、現状や課題について考察し、表現する。	・次のような資料を提示する。 例）日本の労働時間の変遷や諸外国の労働時間との比較、GDP などの指標、労働基準法、平均賃金、失業率、労働災害動向調査、労使交渉について説明したものなど。
展開２ （７時間目）	＜生き方＞ ・労働以外の時間には、どのように過ごすことが考えられるのかを考察する。	・「ワーク・ライフ・バランス」の「ライフ」では、プライベートの時間を過ごすことが想定されるが、例えば町内会活動やボランティア活動などへの参加により、仕事とは別に社会貢献の幅が広がることで、より豊かな生活に繋がる可能性があることに気付かせる。
整理 （７時間目）	・本時の問いの答えについて学習内容を踏まえ、ワークシートに記入する。	・単元全体を通した振り返りシートに、授業前と比較して、特に当初の考えから変化したことについて記入させる。

（個人で考察する場合）
・個人で考察した後、ペアワーク等で意見を交換する。
（グループワークの場合）
・グループで話し合いながら、現状や課題について考察する。

・考察した結果を全体で共有する際は、Google フォームを活用する方法が考えられる。

・考察の際には、個人の自由な時間として捉える以外に、社会貢献の時間をもつことについても検討する。

（全体を通して）
・本時全体を通して、家庭科で学習した「持続可能な消費生活・環境」の内容について振り返る場面があると望ましい。
（例：ライフスタイルと生涯を見越した生活設計）

オ　学習の進め方や学習評価の工夫

(ｱ) 単元全体を１枚にまとめた振り返りシートを活用した「学習履歴」の蓄積

単元全体を１枚にまとめた振り返りシートを配付し、ポートフォリオ形式で生徒が学習記録を残していくことにより、授業前後の自身の変容に気付くことが可能となる。教師は、学習履歴を基に、主体的に学習に取り組む態度の評価や授業改善に生かすことが可能となる。 （参考）振り返りシート（Link⑥）

(ｲ) Google フォーム等の活用

・全体の場で発言することを躊躇する生徒にとっても意見を表明できる方法となる。
・クラス全体の意見が可視化され、自らと異なる視点や考え方をもつ生徒との対話を

促すことが可能となる。

・生徒から出された意見等に対して、教師が発問を重ねることで、議論を活性化させることが期待できる。

(ｳ) 他教科との連携

例えば、本時であれば、家庭基礎又は家庭総合の「C　持続可能な消費生活・環境」の内容と関連をもたせることができる。

また、「政治・経済」と家庭基礎又は家庭総合の履修学年が異なる場合であっても、既習事項として振り返りをさせたり、家庭科の教員と教科等横断型の授業を行ったりすることで、生徒はより多面的・多角的な視点で考察することができるようになる。

(ｴ) 評価Ａ～Ｃの具体（振り返りシートの記載から）

評価Ａ	・自身の考えが具体的かつ論理的に示されているとともに、「個人」だけではなく「社会全体」の視点を記載している。 ・学習を通して自分の考えの変化と、次時の学習につながる内容を明確に記載している。 ・自分の意見だけではなく、他者と考えを共有したことで得た新しい視点を生かし、新たな課題を設定している。
評価Ｂ	・学習を通して自分の考えの変化を明確に記載している。 ・自分の意見だけではなく、他者と考えを共有したことで得た新しい視点を生かし、新たな課題を設定している。
評価Ｃ	・記載内容が自分の考えのみによるものに留まっており、新たな気付きや視点に欠けている。 【手立て】 振り返りシートの記載内容から、自身の考えの変化や他者の意見を整理するよう指示するなど対話を通して、改善点を分かりやすく伝え、必要な指導・支援を行う。

4　主体的・対話的で深い学びの実現に向けたチェックリスト

図３は、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の視点を『学習者』と『授業者』それぞれの視点でまとめたものであり、主体的・対話的で深い学びを実現するために『授業者』が何に取り組めばよいのかを明示的に示したものである。

例えば、『授業者』は「具体物や例を提示して引きつける」ことを通して、『学習者』が「学ぶことに興味や関心をもつ」ことや、『学習者』が「見通しをもつ」ために、『授業者』は「既習事項を振り返る」ことや「生徒が自ら本時の目標をつかむようにする」ことなどの視点が必要であると考えられる。

このような視点は主体的・対話的で深い学びを実現するために、『学習者』と『授業者』の視点のどちらか片方が重要ではなく、双方の視点を往還しながら授業改善を進めることが主体的・対話的で深い学びの実現につながっていくことに留意する必要がある。

	授業改善に向けた『学習者』の視点	授業改善に向けた『授業者』の視点
主体的な学び	□学ぶことに興味や関心をもつ □自己のキャリア形成の方向性と関連付ける □見通しをもつ □粘り強く取り組む □自己の学習活動を振り返って次につなげる	□既習事項を振り返る □具体物や例を提示して引きつける □生徒が明らかにしたくなる学習課題を設定する（**社会との関わりを生徒が実感できる課題や学習**） □生徒が自ら本時の目標をつかむようにする □学習課題を解決する方向性について見通しを持たせる □生徒が自分の考えを持つようにする □生徒の思考を見守る □生徒の思考に即した授業展開を考える □生徒の考えを生かしてまとめる □その日の学びを振り返る □新たな学びに目を向けさせる
対話的な学び	□生徒同士の協働を通じ、自己の考えを広げ深める □教職員との対話を通じ、自己の考えを広げ深める □地域の人など多様な他者との対話やICT等の活用を通じ、自己の考えを広げ深める □先哲の考え方を手掛かりに考える	□思考を交流させる □交流を通じて思考を広げる □協働して問題解決する □板書や発問で教師が生徒の学びを引き出す □ICTや生成AI等を活用して、多様な意見に触れさせる □**専門家や関係諸機関などとの連携・協働を図る**
深い学び	□各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせる（**「社会的な見方・考え方」を働かせる**） □知識を相互に関連付けてより深く理解する □情報を精査して考えを形成する □問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう	□資質・能力を焦点化する （身に付けさせたい力を明確にする） □単元や各授業の目標を把握する □ねらいを達成した生徒の姿を具現化する □教材の価値を把握する □単元及び各時間の計画を立てる □目標の達成状況を評価する □**中学校社会科及び「特別の教科　道徳」との関連を図る** □**家庭科及び情報科並びに特別活動などとの関連を図る**

図３　主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善の視点について（令和２年６月文部科学省　国立教育政策研究所）を基に一部作成

Topic 「政治的教養を育む教育」の充実について

平成 27 年（2015 年）に公職選挙法が改正され、選挙権年齢が満 20 歳以上から満 18 歳以上に引き下げられた。こうした状況を踏まえ、各学校においては、政治的教養を育む教育を一層充実することが求められている。

その際、議会制民主主義などの政治や選挙に関する知識に加えて、教育基本法第14条第２項に基づき、学校の政治的中立を確保しつつ、現実の具体的な政治的事象も取り扱い、生徒が有権者として自らの判断で権利を行使することができるよう、具体的かつ実践的な指導を行うことが求められている。

ここでは、学校が議会事務局や選挙管理委員会と連携した取組及び日本新聞販売協会北海道地区本部との連携により、生徒が新聞を活用して現代の諸課題を追究したり解決したりする学習活動の取組などの政治的教養を育む教育の実践例を示す。

１　議会事務局と連携した取組

【羅臼高校】２年生の地理歴史・公民科において、羅臼町議会事務局と連携した「高校生１日議会」を実施

○　ねらい

・羅臼町の現状や地域課題について多面的・多角的に考察し、高校生ならではの視点からまちづくりに関する提案を議会に行うことを通して、地域への理解と愛着を深めるとともに、地域社会の発展に主体的に参画しようとする態度を育成する。



【町議会議員との意見交換の様子】

○　学習内容

・生徒が羅臼町の現状や課題を調査・分析し、地域の実情を踏まえた改善策や新たな取組について提案する。

・提案に当たっては、次のような構成で整理する。

「現在、○○という課題がある。その課題を解決するために、○○を実施することを提案する。これにより、○○のような効果が期待できる。」

・「高校生１日議会」に向けて作成した提案について、町議会議員と意見交換を行う。

・議会進行要領を基に議会が行われることから、実際の議会と同様に質問骨子を作成し、打合せと準備を入念に行う。



【議事堂で町議議員と記念撮影】

○　生徒からの提案

羅臼町の冬季イベントにおいて、住民や関係団体で構成する実行委員会を設置し、継続的な企画・運営体制を構築することを提案したい。そうすることで、町のイベントを、さらに魅力あるものとすることができるのではないか。

町内の運動公園に、グランピング施設に類する宿泊・体験施設やアウトドア設備を整備することを提案したい。既存施設を有効活用しながら新たな観光資源を創出することで、町内の滞在時間の延長や交流人口の拡大につながる可能性があるのではないか。

新たに整備された「知床羅臼野遊びフィールド」は観光資源として期待される施設である一方、周辺道路の整備が十分とは言えず、アクセス面に課題があると考えられる。そこで、施設周辺の道路環境を改善し、安全で利用しやすいアクセス環境を整備することで、観光客の利便性向上や利用者の増加につながるのではないか。

○　本取組の成果

本取組を通して、生徒は地域の現状を客観的に分析し、根拠を基に提案する力を身に付けるとともに、地域社会の形成者として主体的に参画しようとする態度を育成することができた。

2　選挙管理委員会と連携した取組

【釧路東高校】３学年の「政治・経済」において、北海道選挙管理委員会事務局釧路支所及び釧路町選挙管理委員会と連携した「選挙啓発出前講座」を実施


【模擬投票の様子】

○　ねらい

講義、模擬投票及びワークショップ等を通じて、選挙の仕組みや投票参加の意義について理解を深め、将来の政治参加を促すきっかけとする。

○　学習内容

・選挙制度の概要や近年の若年層の投票率の状況などの講話
・実際の選挙で配付される選挙公報について説明
・選挙公報（道選管が作成したもの）を活用し、実際の選挙で使用する投票箱や記載台を用いた模擬投票・開票を実施

○　生徒の感想

・「このような授業のおかげで投票へ行こうと思うことができた。」
・「選挙についてあまり分からなかったので、実際の投票の様子が理解できてよかった。」

3　日本新聞販売協会北海道地区本部と連携した取組

【札幌丘珠高校】「倫理」



○　学習内容

・社会と個人
・近代的人間の見直し

○　授業の目標

新聞各紙に投稿された読者の声を読み、様々な人間の心の在り方や、他者と共によりよく生きる自己を形成することについて理解する。

○　授業の問い

「人間としての在り方生き方とは　～読者の投稿から考える～　」

○　授業の概要

・投稿されている読者の声や悩み、相談に対し、可能な限り先哲の思想などを用いながら投稿者との対話を試みる。
・自分と投稿者との対話内容をグループ内で共有する。
・共有した内容を基にグループ内でディスカッションする。

【釧路湖陵高校】「公共」



○　学習内容

地方自治と住民福祉

○　授業の目標

・釧路地方の課題について理解する。
・よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を身に付ける。

○　授業の問い

・現在の釧路地方にはどのような課題があるのだろうか。
・地元をよりよくするために、私たちにはどのようなことができるのだろうか。

○　授業の概要

・現在の釧路地方にはどのような課題があるのかを新聞により把握する。
・釧路地方をよりよい地域にするために必要な方策をまとめ、発表する。

【上川高校】「公共」



○　学習内容

現代の企業

○　授業の目標

企業の活動はどのような仕組みで行われているのかを多面的・多角的に考察し、論拠をもって表現する力を身に付ける。

○　授業の問い

「企業の活動はどのような仕組みで行われているのか」

○　授業の概要

・企業の仕組み・株式会社の仕組みについて理解する。
・「株価の変動に影響を与える要因は何か」について予想した後、株価の紙面の読み取りをする。
・企業の株価がどのように変化・推移しているのかをまとめる。
・各グループで「株価の変動に影響を与える要因は何か」について触れ、まとめた内容について発表する。

【静内農業高校】「公共」



○　学習内容

選挙と政治参加

○　授業の目標

人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、他の生徒と協働して多面的・多角的に考察し、論拠をもって表現する力を身に付ける。

○　授業の問い

「最も興味のある社会課題について、新聞各社の見解にどのような違いがあるのだろうか」

○　授業の概要

・複数の新聞を比較して必要な情報を整理し、何を基準にして投票するとよいのか考察する。（模擬選挙の実施へつなげる。）
・グループとして関心のある課題について、新聞各社を比較した結果や投票する際の決め手について発表する。
・町選挙管理委員会から講師を招き、選挙に行く前の準備、選挙に行くことの意義等について講義を受け、その後、模擬投票を実施する。